

## 集中講義「科学コミュニケーション」特別セミナー

# 高レベル放射性廃棄物処分の「難しさ」とどう向き合うか 政策の「立地問題化」と「理解活動」主義の批判的検討

講師： 寿楽 浩太 氏 (Kohta Juraku)

東京電機大学工学部准教授

東京大学大学院学際情報学府博士課程単位取得退学。博士(学際情報学)。東京大学大学院工学研究科特任助教などを経て2017年4月より現職。この間、日本学術会議学術調査員(非常勤)、米国カリフォルニア大学バークレー校原子力工学科Visiting Scholar等を歴任。科学技術社会学の立場から原子力利用の問題、近年は特に高レベル放射性廃棄物処分問題を研究。経済産業省の総合資源エネルギー調査会放射性廃棄物ワーキンググループ委員。



2018年 5月25日 (金)

16時30分～18時30分

理学研究科第4講義室

(合同A棟3階303号室)

高レベル放射性廃棄物はそのリスクの特異性から他に類例を見ない対処を必要とする。現在、日本では、この問題を処分場探し、つまり「立地問題」としてこの問題を捉える見方が根強い。そして、その社会的合意形成の難しさを「理解活動」、つまり政策や事業を推進する側からのコミュニケーションの働きかけによって対処を図ろうという方向性が強まっ

ている。しかし、そうした見方は本当にこの問題の本質を捉えているのか。

「理解活動」が「立地問題」を解決し、問題への対処が進むという見立ては正しいのか。科学技術社会学の立場から批判的に検証したい。

本セミナーは理学研究科大学院集中講義「科学コミュニケーション」の一環です。

「科学技術と公共政策のコミュニケーション：高レベル放射性廃棄物処分問題をめぐって」

5/25 (金) 13時～16時, 16時30分～18時30分

5/26 (土) 9時30分～12時30分

理学研究科理学合同B棟745号室 (特別セミナー以外)

※単位取得希望学生は、履修手続きをしてください。

セミナーは、どなたでも参加頂けます。

問合せ：scicom@incertitude.jp

内線5823 (本堂)